

馬淵川が拓いた 美田の里・苦米地

福地地区の馬淵川北部にあった旧地引村。その中心地だった苦米地^{とまへち}は、アイヌ語の「トマム（沼地）・ペツ（川）」が地名の由来とされています。昭和初期までは馬淵川が氾濫^{はんらん}を繰り返す湿地帯でした。また、古くから田んぼが開けていましたが、河岸段丘により馬淵川が

ら引水できず、水源は溜池や井戸のみでした。昭和4年（1929）、地引村の夏堀源太郎村長は村の有志と地引耕地整理組合を設立し、区画整理と畑地改田、灌漑用水路整備を行いました。5年の歳月を経て昭和9年（1934）、湿地は163町歩の美田に生まれ変わり、「苦米地米」と呼ばれる良質米の産地となったのです。そして、南部藩に献上された「御前米」、その歴史を引き継ぐ地域ブランド

米「ふくちこがね」へとつながっていました。平成の大合併で南部町が生まれ、新たな町のブランド米として平成23年（2011）に商標登録されたのが、「南部達者米」です。これは、農薬や化学肥料を通常の5割以下に減らし、青森県の特裁栽培認証を受けた農家が生産した米。平成29年（2017）から販売が開始されました。生産者の一人で、販売も手がける有限会社山金代表取締役の山道金太郎さんは、「品種は『つがるロマン』で、適度な粘りと甘味が特徴です。南部達者米を通じて、南部町を知ってもらいたい。そして、地域の農業を元気にしたいです」と、期待を込めて語ります。高効率で高品質な米づくりと担い手確保のため、馬淵川沿いの水田地帯では、大区画化を中心とした圃場整備が進められています。

シビックプライド

『花は山、人は里』を訪ねて

③

福地地区／町内第一の 穀倉地帯と文化



馬淵川と福地橋（少し上流の吊り橋・苦米地橋は平成24年の台風で流失した）



御嶽神社「地引耕地整理揚水記念の碑」



苦米地の稲刈り風景



「南部達者米」と山道金太郎さん、長男の金也さん

事業を推進する福地土地改良区は、平成28年（2016）に全国土地改良事業団体連合会の功労者表彰で金章を受けました。

「ふくちホワイト六片種」 発祥の地

鎌倉時代に幕府が牧を設け、馬産地として栄えた南部地方。一説によると、馬にとつてニンニクは万能薬だったため、ニンニク栽培が始まったといわれています。また、今から200年以上前、苦米地地区の農家の人たちがお伊勢参りをした際、種子を手に入れ栽培したのが始まりという説もあります。

苦米地で生産されるニンニクは、色が白く、大型で、甘味があり、「苦米地ニンニク」と呼ばれ特に評判が高く、戦後は行商人を通じて八戸市などに売られました。青森県農業試



「ふくちホワイト」の選別作業をする庭田豊さん

験場は苦米地ニンニクを県の奨励品種に選び、「ふくちホワイト六片種」と命名。昭和38年（1963）から全県に栽培が普及しました。

生産者の庭田豊さんは「有機質の多い土壌と冬の寒さ、春からの温暖な気候、豊富な地下水が揃う苦米地は、ニンニク栽培の適地です。種子更新も順調に進み、高品質を保っています」と話し、原産地での生産に誇りを持ち、栽培に取り組んでいます。普段からニンニクはよく食べ、健康維持に役立てているそうで、丸ごと油で揚げたり、豚汁に粒のまま入れたり、醤油漬けにしたりと、産地ならではのおいしい食べ方も教えてくれました。

健康増進施設「バーデパーク」と 町に活気をもたらすイベント

南部町民の健康づくりの拠点であるバーデ



バーデパークの「ふくちアイスアリーナ」の賑わい



「とまべちまつり」の山車を飾ってある作業小屋と
夏堀徳八志さん（達者達人）

パークは、ドイツの温泉保養システムを取り入れた運動浴プールやトレーニングルーム、アイスアリーナ、宿泊施設などを備えた複合施設です。バーデパークを運営する南部町健康増進公社では、健康増進のためのイベントも開催しています。例年6月に行われる「ふくち里山あるき」は、バーデパークを発着点に8キロと16キロの2コースをウォーキングするイベントです。幅広い世代の参加者が運動に親しんだり、交流を楽しんだりする機会となっています。

毎年7月上旬に開催され、県南地方最初の夏まつりとして知られる「ジャックドまつり」も、年代を問わずたくさんの人で賑わいます。「ジャックド」とは県南地方の方言で「たくさん」という意味。花火大会やタレントショー、郷土芸能の発表など盛りだくさんの内容で、2日間で7万人が来場します。9月には苦米地地